

街の活性化委員会 事業計画

委員長 海老原明男

筑波山は、古くから万葉集や古今和歌集に詠み込まれている歴史と文化の山です。そして、我々の生活に溶け込む心の故郷であり、つくばの象徴として、重要な観光資源となっています。近年では交通網の発達により、つくばへのアクセスが向上し、筑波山を訪れる登山客は増えてきていますが、依然として十分な経済効果には結びついていません。筑波山周辺地域の方々と力を合わせてこの地域の活性化に取り組まなければなりません。

まずは、筑波山周辺地域のさらなる観光促進と活性化を目的として、「ツール・ド・つくば2018」を開催します。本年度で10回目の節目を迎える本大会にはこれまで地域のために培われてきた良き伝統があります。この伝統を継承した上で、さらなる地域活性化を図るため、大会の設えや手法を見直し、進化を目指します。さらに、多くの方々につくばへ来て頂くため、街の宝である筑波山と周辺地域の魅力をより感じて頂く新たなかたちに挑戦していきます。2019年には「第74回国民体育大会」のロード・レースがつくば市内で開催されますが、同じ自転車競技として「自転車のまちつくば」の魅力を内外に広め、地域活性化に結び付けるため、関係諸団体と協力していきます。開催後は、本大会が目指す地域活性化に繋がる事業構築ができたのかを確認するため、事業の実施状況や効果などを検証します。その上で、筑波山周辺地域の活性化をさらに持続・発展させるため、移管を含めた様々な可能性の中から「ツール・ド・つくば」の新たなかたちを模索していきます。そして、検証の結果は事業マニュアルに反映させ、次の代へ引き継いでいきます。

地域の方々と力をあわせて事業を行う事により、参加者をつくばの、筑波山周辺地域の方々と、そしてメンバー各人の繋がりがより強くなります。そして、各々の「再団結」が相乗効果を生み出し、つくばを象徴する筑波山と周辺地域の活性化に繋がっていきます。

〔事業計画〕

1. 街の活性化に繋がるツール・ド・つくば2018の開催
2. 開催後の検証、事業マニュアルの更新及び引継ぎ
3. 事業の新たなかたちの模索
4. 会員育成、拡大

予 算

合 計

円
円